

# 令和7年度 道守高等学校 通信制 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 学習支援	a 「学習の手引き」を活用して学習状況を自己管理させ、計画的に自学自習に取り組めるよう指導する。	○「学習の手引き」の活用についての評価は、生徒・保護者の評価ともに昨年度とほぼ同様で、約9割が計画的に自学自習を進めることができたと回答した。計画的に自学自習をこなすことで、高卒に必要な学力だけでなく、社会に出てからも必要とされるルーティン力を身につけられるよう、今後も継続的に指導をしていく必要がある。	・「学習の手引き」は通信制教育実施計画を生徒に示すものとしての大切な役割を持っている。今後はこの内容を学校のホームページに公開し、生徒や保護者がいつでも閲覧できるようにすることで、保護者の支援も得ながら、生徒が学習に見通しを持ち、自学自習の態度を身につけていけるようにする。
	b 生徒の学習意欲を喚起し学習成果を上げるために以下の点に留意して指導する。 ・水曜学習支援の啓蒙 ・理解しやすい授業づくりと丁寧な添削指導 ・教員及び生徒のICT機器・教育番組の積極的活用	・保護者の満足度は昨年度よりも向上したが、生徒の18%は満足できていない。一方で今年度、前期・後期ともに単位修得率が過去最高であったことを考えると、報告課題やスクーリングへの出席を単位修得のためのノルマとしてこなしているが学びの楽しさや満足度につながっていない生徒もいるのではないかと。添削指導のコメントやスクーリング時の個別の声かけなどにより、自己有用感を高め、学習意欲を喚起することも必要であると考える。	・Google Classroom等の活用や、レポート添削の工夫に努め、学習が楽しい、面白い、と思えるような指導の工夫をする。 ・学習の参考となる番組についての情報を「学習の手引き」に記載し、理解の助けとなるようにする。
生徒支援	a 特別活動を通して、思いやりや助け合いの心を持って行動できる生徒の育成に努める。また、いじめの早期発見や早期解決に向けた取り組みに努める。	◎安心して学校生活を送ることができたかという問いに対して、生徒は90%（R6年度94%）と十分な評価を得ることができている。また、保護者に対するアンケートでは92%（R6年度86%）と、昨年と比較して6ポイント高くなっている。いじめの早期発見については、昨年度より生活アンケートを実施しており、そこから疑わしい状況を感じることはない。この点については生徒は安心して学校生活を送れていると考える。	・教員やカウンセラーで情報交換を密にすることで学校生活、家庭生活における生徒の変化を見逃さないように努める。登校指導で生徒の心身の健康状態を把握する。 ・生活アンケートをより多くの生徒が実施できるよう工夫するとともに、さらに多くの情報を発信し生徒や保護者が安心して投稿できる環境を整備する。 ・学校行事や部活動への参加を促して、他者とのよりよい関係を築くことで安心した学校生活を送れるように努める。
	b 研修会等で具体的な問題を提起し、生徒自身に考えさせる場面を設けることで、社会の一員としての規範意識を身につけさせる。	◎社会の一員として、交通法規や喫煙・薬物問題を念頭に置いた「規則やマナーを守ることが出来たか」という問いに、生徒98%（R6年度99%）、保護者96%（R6年度94%）と肯定的な評価をしている。今後も交通規則や社会のマナーについての規範意識の遵守と、その必要性について指導していきたい。	・交通事故やインターネットによるトラブル、スマートフォンの使用方法等、生徒の実態に即したテーマでLHにおける研修会を実施し、規範意識を遵守する大切さを生徒が自覚できるように努める。 ・保護者に対しても敷地内での禁煙、安全運転をお願いする。 ・巡視や個別指導を継続して行い、問題行動の防止に努める。 ・自転車通学生のヘルメット着用を徹底させるように努める。
	c 生徒に特別活動への参加を促し、集団の中で他者と協力することの大切さを伝える。	◎今年度、「ロングホームや学校行事に参加することが出来たか」という問いに、生徒、保護者ともに成果指数70%以上の目標を上回った（生徒89%（R6年度84%）、保護者77%（R6年度75%））。◎部活動については、今年度バドミントン部、陸上部、卓球部、ソフトテニス部、軟式野球部が活動している。全国定時制通信制体育大会には陸上部、バドミントン部が出場した。北信越定通大会にはバドミントン部と軟式野球部が出場した。活動では顧問が共に活動し、生徒は楽しさや充実感を感じている。活動の情報を提供して、生徒の興味を重視しながらさらに活動を広める必要がある。	・学校行事や部活動を通して集団の中で他者と協力する大切さ、楽しさを感じさせることに努める。 ・若樹祭については、生徒への参加を呼びかけ、ポスターなどによるPRを充実させたい。また、より生徒中心の活動になるよう生徒会とともに作りあげたい。
進路支援	a 生徒のコミュニケーション力を育てるとともに、自己理解を深め、進路意識の向上を図るために、以下の実践を行う。 ・進路ガイダンス ・進路オリエンテーション ・職業観育成講座 ・教員との面談 ・様々な関係機関との連携	◎進路行事の実施、担任や進路部との面談を通して、ほとんどの教職員が生徒の自己理解を促し、進路に関する情報を提供する取り組みを行っている。保護者の協力のもと、『通信道守』の進路関連の記事や配布物が家庭でも進路について考える機会となっていると思われる。様々な事情を抱えた中で進路を考える段階ではない生徒もおり、外部との連携も深め、本人の要望に応じた支援ができるよう継続した実践を行っていく。	・従来の進路ガイダンス、進路オリエンテーション、就職進学ガイダンスの企画を生徒の実態に応じた内容に変更し、生徒の段階に応じた進路意識向上を図る。 ・進路担当へ直接進路に関する相談をしたいという生徒が増えてきている。担任・保護者と情報を共有しながら、要望に応じてキャリアカウンセリングを行う。
	b 進路に関する情報を共有し生徒の実態に応じたきめ細かい指導に役立てる。	◎卒業予定生に関して、就職希望の生徒には就職活動の流れを示し、スーツの着こなし講座で意識づけを行い、サマー求人企業説明会参加に向けた流れが定着している。進学希望の生徒には、生徒会活動、部活動、ボランティア活動への参加を促し、多様化した入試形態に対応できるようにしている。	・卒業後社会に出るための学びの場として、ふくい若者サポートステーション、WALLS、福井産業技術専門学院と連携を図り、説明会や職業体験等を企画し、生徒・保護者への情報提供を行う。

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
生徒理解	a すべての教職員が生徒理解・状況把握に努め、多様な生徒に対応した適切な関わりをできるよう、生徒情報交換会や事例検討会、教育相談研修会を実施し、SC・SSW・専門機関等との連携を強化する。	◎生徒と触れ合う時間が限られている中で、生徒が先生に親身にかかわってもらえていると答えた割合は86%と非常に高い評価となった。 ◎全教職員が、生徒情報交換会や事例検討会を通して生徒の理解や状況把握に努め、生徒と適切な関わりをもつことができたと答えている。教育相談研修会ではSCより「学校で役立つ行動分析学」について学ぶなどして、さらなる生徒理解に努めた。	・生徒が年々増えてきて、多人数が苦手な生徒にとっては教室が居づらい状況になっていて、クラス担任としても生徒を把握するのがたいへん難しくなっている。実際のアンケートでも、1割強の生徒や保護者から評価を得られていないが、限られた時間でできることを丁寧にやっていくしかない。また、SCやSSWとも連携して早期に適切な支援していきたい。
	b 保護者面談や「保護者のつどい」の内容の充実を図り、保護者への支援が生徒支援につながるようにする	◎今年度も、教職員の生徒への対応について、保護者の満足度はとても高かった。また、年2回「保護者のつどい」を開催し、長年不登校支援を実践し経験と実績をもつ外部講師を招いて、「親の会」スタイルの会を実施した。保護者が悩みを共有することでそれぞれを経験を学び合うこともできた。今後の保護者同士のつながりの機会にもなり、たいへん好評価が得られた。	・不登校状態の生徒については、クラス担任と連携しながら相談室からのお便りなどを通して保護者と連絡を取り、早期の生徒支援につなげていきたい。またSCやSSWと連携しながら保護者面談などの支援も行い、必要であればSSWの家庭訪問を行うなどしたい支援の機会を増やしていきたい。 ・来年度も「保護者のつどい」を開催する。相談の機会を提供するだけでなく、保護者同士がつながる機会となることを期待している。
保健安全	a 生徒が美化ボランティアや清掃活動に自主的に取り組むことができるように、家庭と連携しながら美化意識を高めていく。	◎清掃や美化ボランティアに取り組んだ生徒の割合は、R4 94%→R5 91%→R6 89%→R7 82%と高い指数を維持しているが、右肩下がりととなっている。ただ、取り組んでいない生徒は少数派であり多くの生徒は自覚をもってしっかり美化活動に参加している。家での整理整頓や掃除をしている割合も、R4 52%→R5 65%→R6 57%→R7 62%と、前年比で5ポイント上昇している点については改善が期待ができる兆候だと捉えたい。 ◎美化ボランティアにも登校しているほとんどの生徒が参加しているという印象であり、自発的に美化活動に取り組む姿勢が確立しているといえる。(前期7/20・175名、後期12/21・159名)	・最適な学習環境の整備、単位修得という観点からも、合格済みレポートの保管・管理など、通信制で学ぶ上で欠かせない態度の育成を念頭に置いて指導していきたい。 ・各清掃場所の監督の先生方による丁寧なご指導により、清掃への取り組みは堅調である。現在の良好な雰囲気を今後も維持し続けることが肝要である。
	b LH等を通して薬物、喫煙が体に及ぼす影響を理解させ健康への意識を高め、学級担任と連携し健康診断受診の必要性について、保護者および生徒に対する啓蒙活動に努める。	◎喫煙や薬物乱用防止への取り組みについては、R4 生徒・保護者ともに97%→R5 生徒100%・保護者96%→R6 生徒96%・保護者97%→R7 生徒98%・保護者96%と、高い達成率を実現している。社会全体のこれら心身に有害な物質に対する悪影響への理解が浸透していることの表れであると考えられる。 ◎健康診断については、担任の先生方を通じて生徒に対して費用の自己負担のない指定医療機関「ふくい総合健康プラザ」での受診を促しているが、受診率はR4 52%→R5 46%→R6 39%→R7 34%と、低迷している。各クラスごとの割合には22~66%と開きがあることから、必要に応じて担任の先生方にアプローチしていくことも求められる。	・LH等による講習を継続し、薬物や喫煙の体に及ぼす影響を今後も伝えていく。 ・校舎内外の巡視を継続し、喫煙防止やゴミの分別を根気強く呼びかけていく。 ・週1、2回しかないスクーリングに確実に出席できるように、日々の健康観察の必要性を促すとともに健康診断受診の重要性についても生徒および保護者の意識を高められるようLH、面談等を通じて粘り強く説いていくことが肝要である。
生涯学習	a 「通信道守」等の発行により、生徒・保護者に適切な情報が届くように工夫する。	◎教員は、「通信道守」を活用して生徒・保護者に対し情報発信に努めている。各家庭に「通信道守」を送付し、生徒向けには教室に掲示した。生徒・保護者ともに「通信道守」を配布・送付したことで、保護者の目に触れない学校行事での生徒の様子など、大切な情報を伝えることができた。学校と家庭を繋ぐ情報誌として定着してきており、生徒・保護者ともに成果指数目標を上回ることができた。 次年度も、その年のタイムリーな情報を発信し、本校の教育活動に対する理解を深めていただくために活用する。	教員・生徒・保護者ともに目標取組指数・成果指数を超えることはできたが、保護者に対する成果指数が若干低かった。「通信道守」の紙面の充実を図るとともに、保護者が知りたい情報などを掲載することで、さらに取組み指数の向上を目指す。
	b 授業・LH・広報などの機会を利用し、様々なメディアから広く情報を得たり、正確な知識を身につけることの有効性を伝える。	◎教員・生徒・保護者ともに目標とする取組指数は超えることができた。特に生徒の成果指数が高いことから、授業やLH等の時間を通じて効果的に情報を提供することができた。	生成AIの進歩で様々なフェイクニュースや動画がネットワーク上にあふれている現状で、いかに真偽を判断するか、また自分自身の身を守るべきかを伝える。